

《教養科目》

科目名	キャリア教育Ⅱ				
担当者氏名	大野 博之、田中 政巳、キャリア委員長、専任教員				
授業方法	講義・演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「キャリア教育Ⅰ」で学習した内容を踏まえ、就職や進学に向けてより具体的なキャリア形成を目指す授業とする。ディプロマポリシーに基づいて、社会人・職業人としての資質や能力を磨くための講話や体験的な学習等を通して自身の価値を高めていく。グループワーク等を用いて、主体的で協働的な学習を進める。

《テキスト》

キャリアノートブック

《参考図書》

大野 誠著「敦照のこころ」現代書林1995 等

《授業の到達目標》

- ・卒業、就職に向けてキャリアデザインを設計できる。
- ・進路決定のための情報を収集し就職活動に生かせる。
- ・進路決定までの課題を抽出し、解決ができる。
- ・専門職業人、社会人としての基礎力を身に付ける。
- ・自身のこれからのキャリアについて考え、よりよく生きようとする態度を身に付ける。

《授業時間外学習》

授業で学んだことを生かし、すべての科目において学ぶ目的を明確にしながらかつ充実した学業生活を送れるように、時間外の学習にも進んで取り組む。  
前後期15時間1単位の本科目においては15時間の時間外学習が必要とされており、毎時間1時間程度の時間外学習に取り組む。

《成績評価の方法》

レポート課題等60%、授業に向かう意欲や態度、姿勢40%  
総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートや提出課題については適宜評価し、口頭で前回の振り返りを行う等して、フィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	働くことの意義(キャリア委員長)	専門職業人として社会に貢献することの意義について理解し、社会人としての心構えを持つ。目指す職業人として働くことの意義について考えておく。
2	就活講座①就活計画(担任)	企業説明会の内容をまとめ、今後の就職活動のスケジュール作成を行う。進路決定に向けたスケジュールと各種手続き及び必要書類について理解する。
3	就活講座②職業理解・履歴書(企業)	企業や職場が社会人1年生に求めること、食に関わる社会人として大切なことについて学ぶ。1年次に作成した履歴書をブラッシュアップし、完成させる。
4	就活講座③面接対策1(担任) 就職試験対策	ロールプレイ、模擬面接を通して面接の態度や受け答えのしかたについて学ぶ。キャリアノートブックp62～64、70～79を読んでおく。
5	就活講座④面接対策2(担任) 就職試験対策	ロールプレイ、模擬面接を通して面接の態度や受け答えのしかたについて学ぶ。前回の反省点を確認する。
6	卒業生講話①	就職して間もない卒業生の就職活動体験談を通して、社会人として必要な資質・能力、夏休みの使い方、学生時代に身につけておくべきことを学ぶ。質問を考えておく。
7	大学における学び① 外部講師の講演の聴講	聴講する態度を身につけるとともに聴講内容を正確に捉え理解するためのメモの取り方を学ぶ。講演内容を振り返りまとめる。
8	大学における学び② 講演のレポート作成	前回聴講した講演のレポートを作成することを通してレポート作成スキルを身につける。前回の講演内容を振り返り、レポート作成の準備をしておく。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	キャリア教育Ⅱ				
担当者氏名	大野 博之、田中 政巳、キャリア委員長、専任教員				
授業方法	講義・演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「キャリア教育Ⅰ」で学習した内容を踏まえ、就職や進学に向けてより具体的なキャリア形成を目指す授業とする。ディプロマポリシーに基づいて、社会人・職業人としての資質や能力を磨くための講話や体験的な学習等を通して自身の価値を高めていく。グループワーク等を用いて、主体的で協働的な学習を進める。

《テキスト》

キャリアノートブック

《参考図書》

大野 誠著「敦照のこころ」現代書林1995 等

《授業の到達目標》

- ・卒業、就職に向けてキャリアデザインを設計できる。
- ・進路決定のための情報を収集し就職活動に生かせる。
- ・進路決定までの課題を抽出し、解決ができる。
- ・専門職業人、社会人としての基礎力を身に付ける。
- ・自身のこれからのキャリアについて考え、よりよく生きようとする態度を身に付ける。

《授業時間外学習》

授業で学んだことを生かし、すべての科目において学ぶ目的を明確にしながらかつ充実した学業生活を送れるように、時間外の学習にも進んで取り組む。  
前後期15時間1単位の本科目においては15時間の時間外学習が必要とされており、毎時間1時間程度の時間外学習に取り組む。

《成績評価の方法》

レポート課題等60%、授業に向かう意欲や態度、姿勢40%  
総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

レポートや提出課題については適宜評価し、口頭で前回の振り返りを行う等して、フィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	就活講座⑤内定後の行動(担任)	就職内定後にすべきことについて学ぶ。キャリアノートブック p 80~86を読んでおく。
2	卒業生講話②	社会で活躍する卒業生の就職活動体験談を通して、社会人として必要な資質・能力や学生時代に身につけておくべきことを学ぶ。質問を考えておく。
3	ディプロマポリシー(担任)	ディプロマポリシーの5つの能力が身に付いているか、自分自身を振り返り確認する。学生便覧p14を読んでおく。
4	学院創立記念に係る講話(学長)	学院創立記念に係る講話を通して、社会人としての教養を高め自己を見つめる。学習内容を振り返りまとめる。
5	就職活動報告会準備	グループ別にこれまでの就職活動について報告し合い、課題等を明らかにしながら、後輩に伝える準備をする。次回の説明資料を作成する。
6	就職活動報告会	グループ別に就職活動や就職試験の様子について後輩(1年生)へ伝え、心得るべきポイントについて話し合う。後輩への説明内容を考えておく。
7	社会人としての使命感(学長)	本学DPに掲げる能力が社会(専門職業)でどう生かされるかを知り、社会人としての使命感を持つ。就職活動の反省点をまとめておく。
8	/	/
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	埼玉学				
担当者氏名	安食 邦明				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

埼玉県の歴史や風土と、その中で育まれた人や食文化等に焦点を当て、郷土埼玉を理解することで、本学で学ぶことの価値を共有し、保育者や食の専門職として地域で活躍することの意義を学ぶ。最新の県内のニュースや集めた豆知識を共有し、郷土の良さ、強みを理解すると共に、持続可能な社会（SDGs）に向けた埼玉県の未来を考える力を培う。

《授業の到達目標》

- ・埼玉県の文化、自然等を学び、理解し、説明できる。
  - ・埼玉県が輩出した「人」に焦点を当て、地域社会づくりや男女共同参画社会実現での役割を説明できる。
  - ・埼玉の食文化ー県内各地伝承の郷土料理を学び、その成り立ちや文化を理解し、説明することができる。
- 以上の学びを通し、埼玉県の未来について、SDGsの実現を踏まえ考え、実践する能力を培う。

《成績評価の方法》

授業中に課す小レポート60%、最終レポート40%で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

『埼玉のトリセツ』2020年7月、昭文社  
 県民学研究会(編)『思わず人に話したくなる埼玉学』2013年2月、洋泉社  
 渋沢栄一著・守屋淳訳『現代語訳論語と算盤』2010年2月、ちくま新書

《授業時間外学習》

授業前：次回のテーマについて文献等で調べ学習する。皆に知ってほしい埼玉の豆知識を各自で調べる。  
 授業後：授業で配布された資料等を読み込み理解を深める。  
 最終レポート：出身市町村の歴史や特色、課題等を自己学習によって調査し資料を作成する。  
 (本授業では29時間の時間外学習が必要です。)

《課題に対するフィードバック等》

レポートについては内容を確認し、次回の授業の中でコメントを付けてフィードバックする。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	県の基本情報	県の基本情報、県のシンボル、歴史、地形等について学ぶ。県民性(グループ協議)。 [時間外学習]埼玉の自然、歴史、風土等について調べておくこと。
2	県のスポーツ、芸術文化	自然災害、スポーツ、文化、文学、芸術等について。埼玉の自慢(グループ協議)。 [時間外学習]埼玉の自然、文化、芸術等について調べておくこと。
3	自分の地元を知ろう	出身市町村を学ぶ意義。(例)志木市 自分の出身市町村の自慢(グループ協議)。 [時間外学習]自分の出身の市町村について、調べておくこと。
4	渋沢栄一の生涯	渋沢栄一の生涯、その功績と社会に与えた影響、彼を育んだ郷土埼玉県を考える。 [時間外学習]渋沢栄一の功績等について、調べておくこと。
5	荻野吟子や県の偉人たち	荻野吟子が果たした役割について考える。埼玉県のその他の偉人を紹介する。 [時間外学習]荻野吟子の功績等について、調べておくこと。
6	県の農産物、食文化	県内の農産物、伝統野菜とその歴史を学び、埼玉県の食文化を理解する。 [時間外学習]県内の有名な農産物等について、調べておくこと。
7	県の郷土料理、産業、鉄道	県内の郷土料理、産業、鉄道を学び、その成り立ちや文化を理解する。 [時間外学習]県内の郷土料理について、調べておくこと。
8	埼玉県の未来を考える	埼玉県の未来についてSDGsの実現を踏まえ考察(グループ協議)。最終レポートについて情報交換[発表学修]。[時間外学習]埼玉県の未来について考察しておくこと。
9	/	/
10	/	/
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	塚原 昌子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

この授業では、英語ⅠA・ⅠBで習得した基礎学力をベースに、応用力を身につけることを目的とする。観光英語を通して「読む/書く/聞く/話す」の4つの技能を高め、テキストや資料を用いて実践的な英語力を養う。

《テキスト》

CD付 ステップアップ観光英語 ENGLISH FOR TOURISM/Intermediate 観光英検センター編 2025年 三修社

《参考図書》

適宜、指示します。

《授業の到達目標》

- 1) 英会話に関して基礎レベルから応用レベルへステップアップすることができる。
- 2) 実践的なコミュニケーションができる。
- 3) 音読やシャドウイングができる。
- 4) 諸外国の文化や生活について関心を高め、説明することができる。

《授業時間外学習》

確かな英語力を身に付けるために、以下のことを心掛けること。 1) 日頃からテキストに付随するCDを聞き、自然な速さの英語に慣れる 2) 知らない単語・熟語は、辞書で確認する 3 「読む/書く/聞く/話す」活動を繰り返し行う 4) 授業内容の予習、復習を必ず行う  
本授業では60時間の授業時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

2回の小テスト (60%)、プレゼンテーション (30%)、課題など (10%) 総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

小テストを添削して次回の授業で返却します。また、授業内で行うプレゼンテーションに関して、フィードバックを行います。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	Unit1 Travel Information①	(授業内容) 英会話(自己紹介)、授業の受け方・英語の学び方/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit1の本文と単語の意味を調べる。
2	Unit1 Travel Information②-読解と会話	(授業内容) 旅行情報/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit1の各TASKを解く。
3	Unit2 At the Airport	(授業内容) 空港にて/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit2の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
4	Unit3 Hotel	(授業内容) ホテル/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit3の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
5	Unit4 Dining	(授業内容) 食事/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit4の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
6	Unit5 Asking and Giving Directions	(授業内容) 道を尋ねる・教える/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit5の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
7	Unit6 Buses and Trains	(授業内容) バスと電車/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit6の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
8	Unit1-6のまとめ	(授業内容) Unit1-6の重要項目確認、小テスト (授業準備) 教科書・ノートの重要項目整理、会話練習。
9	Unit7 Mailing and Money Exchange	(授業内容) 郵便と両替/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit7の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
10	Unit8 Sightseeing (1)-読解と会話	(授業内容) 観光(1)/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit8の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
11	Unit9 Sightseeing (2)-表を読む	(授業内容) 観光(2)/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit9の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
12	Unit10 Problems and Complaints	(授業内容) トラブルと苦情/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit10の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
13	Unit11 Tour Conductor Duties	(授業内容) ツアーコンダクターの職務/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit11の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
14	Unit12 Sightseeing in Japan	(授業内容) 日本の観光/内容理解・会話練習 (授業準備) Unit12の本文と単語の意味を調べる。各TASKを解く。
15	Unit7-12のまとめ	(授業内容) Unit7-12の重要項目確認、小テスト/プレゼンテーション (授業準備) 教科書・ノートの重要項目整理、プレゼンテーションの準備

《教養科目》

科目名	海外研修				
担当者氏名	大野 博之、古木 竜太、専任教員				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 3-3 汎用的技能 <input type="radio"/> 4-4 態度・志向性 <input checked="" type="radio"/> 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

1年次に履修した「日本文化と国際理解」で学び、身につけたことを生かし、訪問先の自然や伝統・歴史・文化等を進んで学ぶとともに、異文化を理解しながら専門職としての自己を確立していく。また、広く国際社会の中で貢献し、信頼される職業人となるために、授業は、グループワーク・発表等を通し、主体的・対話的に学びながら他者理解を深め、専門職としての資質・能力を高めていく。

《授業の到達目標》

集団行動のルールとマナーを理解し実践できる。集団行動を通して、「One for all, all for one」の精神を身につけ実践できる。訪問先では進んで現地の人と関わり歴史や文化等について積極的に学ぶ。特にホームステイにおいては英語でコミュニケーションがとれる。研修先での学修内容をSDGsと関連付けながらまとめて発表できる。

《成績評価の方法》

- ・課題への取組内容やノートのとまとめの状況 (70%)
- ・成果発表の内容・態度 (30%)
- ・総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

大野誠「敦照のこころ」現代書林, 1995  
 その他、必要な資料は授業で配布

《参考図書》

- ・鷲見由理「ホームステイに役立つ英会話100」ナツメ社, 2003
- ・その他、必要に応じて授業の中で資料の配付や紹介を行う。

《授業時間外学習》

授業前には予習や準備をしておくこと。  
 授業後は授業の内容をノートにまとめたりレポート作成等に取り組んだりすること。  
 1単位45時間の時間外学習が基準であることから、本科目では10回20時間の授業時間に加えて25時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

「振り返りシート」やノート等の記録、発表等について、その都度評価し、フィードバックしていく。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	海外研修の目的や意義：学長	海外研修の目的や意義について理解を深める。 〈時間外学習〉授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
2	現地研修の準備(1)：引率者等 研修先の理解	研修先の文化、歴史、伝統、環境等について理解を深める。 〈時間外学習〉授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
3	現地研修の準備(2)：引率者等 行動目標設定	現地研修のための組織作りや行動目標を設定する。 〈時間外学習〉グループごとに決めた内容をまとめておく。
4	現地研修の準備(3)：引率者等 研修の心得	研修中のルールやマナー、言語等について学ぶ。 〈時間外学習〉授業で学修した内容をノートに整理しまとめておく。
5	研修先での見学や体験等(1)：引率者 研修	研修先での見学や体験(1)〈時間外学習〉その日の記録やまとめを行う。
6	研修先での見学や体験等(2)：引率者 研修	研修先での見学や体験(2)〈時間外学習〉その日の記録やまとめを行う。
7	研修後のまとめ(1)：引率者等 発表準備	研修先で学修したことやその成果についてパワーポイントにまとめる。(1)〈時間外学習〉研修内容や成果について整理しておく。
8	研修後のまとめ(2)：引率者等 発表準備	研修先で学修したことやその成果についてパワーポイントにまとめる。(2)〈時間外学習〉研修内容や成果について整理しておく。
9	研修のまとめ発表(1)：引率者等 成果発表	研修先で学修したことやその成果についてのまとめを発表する(1)〈時間外学習〉研修内容や成果について整理しておく。
10	研修のまとめ発表(2)：引率者等 成果発表	研修先で学修したことやその成果についてのまとめを発表する(2)〈時間外学習〉研修内容や成果について整理しておく。
11	/	/
12	/	/
13	/	/
14	/	/
15	/	/

《教養科目》

科目名	倫理学				
担当者氏名	浜田 郷史				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

倫理学は、皆さんがよりよく生きるために役立つ哲学の実践部門です。よりよく生きるためには、「よさ」の本質を知る（哲学する）必要があります。たとえば、なされた悪に対して報復せずゆるすべきか、転売行為は非難されるべきか、などを考えましょう。「正義」「仕事」「ケア」「悪」「共感」「不幸」などについて、毎回「哲学対話」を行います。クエスタントにて授業内容の理解度把握を行います。

《授業の到達目標》

(1) 倫理学の基礎知識を説明できる。(2) 自分の倫理観を知り、他者の倫理観にも関心を向けることができる。(3) 倫理的葛藤に際して、根拠のある意志決定ができる。

《成績評価の方法》

全体で100%（総点100点）とし、「筆記試験60%」、「ディスカッション、リアクションペーパーの取り組み40%」の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

テキストは特に定めませんが、毎回プリントを配布する。

《参考図書》

平尾昌宏『ふだんづかいの倫理学』、晶文社、2019年。  
 山内志朗『小さな倫理学入門』、慶應義塾大学出版会、2015年。

《授業時間外学習》

本授業では29時間の時間外学習を必要とする。したがって各回4時間程度の予習・復習が課される。授業後は配付資料等をもとに要点を復習しておく。対話の前には、テーマについて考えておくことが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

授業の最後に質問を受ける。次の授業の最初にコメント・解説を行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	倫理学とは何か	「倫理学」とは何だろう？ 「哲学対話」を通じて、普遍化テストを学ぶ。[予習/復習] 普遍化テストの結果をプリントに記入する。
2	悲しみからの倫理学	苦しみたくないが、苦しんでいる友には寄り添いたい。「不幸」と「共感」について考察し、対話する。[予習/復習] 不幸の2つの意味をまとめる。
3	正義とは何か	正義は必要か？ 「正義」の基本的な意味を分析し、身近な例に当てはめる。[予習/復習] アリストテレスの正義論に基づき、自らの属している社会を分析・分類する。
4	正義と共感	「正義」と「共感」のジレンマについての文学作品をいくつか紹介したのち、望ましい態度を対話する。[予習/復習] 授業で紹介するいくつかの倫理的ジレンマを解く。
5	悪の倫理学	「悪」と「ゆるし」についての哲学・文学をいくつか紹介したのち、究極的な悪について対話する。[予習/復習] 無自覚な悪の具体例を考える。
6	ケアの倫理学	「ケア」と「脆弱性」について対話し、対人援助職にとって望ましい態度や倫理的指針を対話する。[予習/復習] ケアを行う際の注意点についてまとめる。
7	買い物の倫理学	ビジネス倫理を説明し「賢い買い物」「よい仕事」の意味を対話する。[予習/復習] 「よい仕事」の条件を考え、まとめる。テスト対策。
8	いのちの倫理学/授業終了後、試験	これまでの学習成果をふまえて、私たちの「いのち」の繋がりについて考察する。授業終了後、筆記試験。[予習/復習] 人間として生きることが持つ課題について考察する。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《教養科目》

科目名	くらしと法律（日本国憲法）				
担当者氏名	菅野 仁紀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 2-2 知識・技能 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

本講義は、憲法の基礎にある近代立憲主義の考え方、統治機構に関する基本事項および基本的人権の保障を扱います。

日本国憲法で保障されている人権とは何か、国の政治が実際にどのように行われているのか等について、学説と重要判例、さらに近時の事件・問題等を通して学修します。

また、アクティブラーニングの一環として、講義内容に関するレポートを作成し、学修内容の理解を深めます。

《授業の到達目標》

(1) 憲法とは何か、日本国憲法とは何かを理解し、その仕組みと基本原理（人権保障および権力分立等）を説明できる。

(2) 実際の社会問題や身近な事例を法学的かつ憲法学的な視点で考えるための知識や技術を身につけ、それらの問題や事例に関連づけ、適用できる。

(3) これらを通して、自立・自律した市民としての批判的思考力を身につけ、表現できる。

《成績評価の方法》

定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）とし、総合的に評価します。総合評価60点以上を合格とします。

《テキスト》

小林幸夫・関畑崇之編著『イントロダクション 日本国憲法』（玉川大学出版部・2025）

また、授業時にレジュメを配布します。

《参考図書》

芦部信喜〔高橋和之補訂〕『憲法〔第8版〕』（岩波書店・2023）

斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法〔第3版〕』（弘文堂・2026）

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50!〔第3版〕』（有斐閣・2023）

《授業時間外学習》

(1) 法律や憲法に関わるニュースや身近な事例を常に意識しておくこと。(2) 各授業に参加するにあたり、授業計画の学習内容欄に記載した内容を中心に、学修テーマや自分の興味関心のある問題について、教科書等を使用してまとめること（2時間程度）。(3) 各授業後は、教科書・レジュメを中心に学説・判例等の要旨・論点をまとめること（2時間程度）。

《課題に対するフィードバック等》

小テストの解説やレポートの講評は、授業内に適宜実施します。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	法・法律とは何か	日常生活における法、法と道徳の関係、法の仕組み 〔時間外学習〕日常生活における法について、具体的な経験に基づいてまとめること
2	憲法とは何か	近代立憲主義と社会契約論、憲法の目的 〔時間外学習〕近代立憲主義とは何か、その目的についてまとめること
3	統治機構（1） 権力分立、国会・内閣	権力分立の意味、国会・内閣の役割 〔時間外学習〕権力分立とは何か、その歴史的背景と特徴についてまとめること
4	統治機構（2） 裁判所・違憲立法審査権	裁判所の役割、違憲立法審査権の特徴・機能 〔時間外学習〕司法権の意味、違憲審査制の特徴と機能についてまとめること
5	国民主権と天皇制	主権の意味、日本の天皇制の特徴 〔時間外学習〕国民主権の意味、象徴天皇制と国事行為についてまとめること
6	平和主義と戦争放棄	平和主義と戦争放棄、個別的自衛権と集団的自衛権 〔時間外学習〕憲法9条の意義、憲法9条をめぐる学説についてまとめること
7	基本的人権の原理	基本的人権の内容・範囲とその限界 〔時間外学習〕基本的人権の制約原理について学説についてまとめること
8	包括的基本権	幸福追求権の意味・範囲と新しい人権 〔時間外学習〕幸福追求権の意味と範囲についてまとめること
9	法の下での平等	憲法における平等の意味、許される区別と許されない差別 〔時間外学習〕「等しいもの」を「等しく」扱うとはどういうことかまとめること
10	人身の自由	奴隷的拘束・苦役からの自由と適正手続の保障 〔時間外学習〕「適正手続の保障」とは何か、その起源と意義についてまとめること
11	精神的自由権（1） 思想・良心の自由	思想・良心の自由の特徴と意味 〔時間外学習〕「思想・良心の自由」について、歴史的経緯に触れてまとめること
12	精神的自由権（2） 信教の自由・政教分離	信教の自由、国家（政治）と宗教との関わり 〔時間外学習〕「目的・効果基準」について、判例を挙げてまとめること
13	精神的自由権（3） 表現の自由	表現の自由の意義・価値と審査方法 〔時間外学習〕表現の自由の優越的地位について、学説を挙げてまとめること
14	経済的自由権（職業選択の自由など）	職業選択の自由、消極目的規制と積極目的規制 〔時間外学習〕「規制目的二分論」について、2つの判例を挙げてまとめること
15	社会権（生存権）	社会権の特徴、生存権の必要性・歴史性と権利性 〔時間外学習〕生存権の権利性をめぐる学説について、判例を挙げてまとめること

《教養科目》

科目名	情報処理Ⅱ				
担当者氏名	大野 譲太郎				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-1 教養 <input type="radio"/> 2-2 知識・技能 <input checked="" type="radio"/> 3-3 汎用的技能			

《授業の概要》

情報化社会の進展に伴い情報倫理や基本的な情報処理の習得は必須の教養と言える。情報倫理に関しては情報機器を扱う際発生するリスクを理解し、一般的に施されている情報セキュリティポリシーを遵守出来るようにする。また、多岐に渡る情報処理の分野において、特に将来利用する機会が高いであろう文章処理、表計算、プレゼンテーションソフトを使った情報処理技術向上を能動的かつグループ協議を行いながら学習を行う。

《授業の到達目標》

情報倫理 : インターネット利用の際一般的に起こりうるトラブルを未然に防ぐ適切な運用方法を説明できる。  
 文章処理 : 日本語の入力および文書処理能力を実践できる。(ビジネス文章作成)  
 表計算ソフト : 情報処理能力、コンピュータ活用を実践できる。

《成績評価の方法》

授業中の課題 (70%) 小テスト (30%) を総合的に判断する。  
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

日本語ワープロ検定試験模擬問題集2級・準2級 日本情報処理検定協会、情報処理技能検定試験表計算模擬問題集 2級・準2級 日本情報処理検定協会

《参考図書》

情報倫理ハンドブック noa出版

《授業時間外学習》

処理速度向上のためタイピング練習や授業中の内容を復習することが望ましい。  
 本授業では15時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

授業内講評やファイルサーバー内でフィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	情報倫理	著作権、個人情報の取り扱い、インターネットコミュニケーションの留意点、パスワード管理など。準備学習：一年次に行った内容を復習していることが望ましい
2	基本的な表計算ソフトの活用	TAB、SHIFT、ENTER、CTRLキーの活用、セルの書式設定、オートフィルなど 準備学習：一年次に行った表計算の内容を復習していることが望ましい
3	関数を用いた表計算ソフトの活用	オートサム、罫線、基本的な計算、AVERAGE関数、MAX関数、MIN関数など 準備学習：前回の課題を復習することが望ましい。
4	表計算ソフトを用いた基本的な実務	検定問題から実務を想定した表計算ソフトでの事務処理 準備学習：前回の課題を復習することが望ましい。
5	表計算ソフトを用いた実務	検定問題から実務を想定した表計算ソフトでの事務処理 準備学習：テキスト (Excel) の内容を予習しておくことが望ましい
6	プレゼンテーションとPowerPoint	プレゼンテーション技術に関する基本的概要と、それに適したPowerPointの使い方 準備学習：一年時に行ったプレゼンテーションの復習を行うことが望ましい。
7	基本的な文章処理ソフトの活用	配置と基準、均等割り付け、網かけ、囲み線、下線、フォント、色分けなど 準備学習：一年次に行った文章処理ソフトウェアの内容を復習していることが望ましい
8	ビジネス文章作成の基本	文章体裁の整え方表の作成、表の網かけ、セルの結合など表を用いたビジネス文章作成 準備学習：前回の授業内容を復習することが望ましい。
9	ビジネス文章作成	切り取り線などを用いた高度なビジネス文章作成 準備学習：テキスト (Word) の内容を予習しておくことが望ましい
10	文章処理ソフトを用いた実務	検定問題から実務を想定した文章処理ソフトでの事務処理 準備学習：テキスト (Word) の内容を予習、復習しておくことが望ましい
11	順位付けと判断文	RANK関数、IF関数、並び替え、表示形式の変更など 準備学習：excel基本問題 (授業内配布) を復習していることが望ましい
12	端数処理と判断文	ROUND関数、ROUNDUP関数、ROUNDDOWN関数、複数のIF関数 準備学習：テキスト (Excel) の内容を予習、復習しておくことが望ましい。
13	データ分析と表検索	実際のデータベースの概念、VLOOKUP関数 準備学習：テキスト (Excel) の内容を予習、復習しておくことが望ましい。
14	論理関数	AND関数、OR関数 準備学習：テキスト (Excel) の内容を予習、復習しておくことが望ましい。
15	総復習	表計算ソフト、文章処理ソフトの処理速度と理解度を測る小テスト 準備学習：授業内で課題と作成したファイルを確認しておくことが望ましい

《教養科目》

科目名	情報社会と経営				
担当者氏名	大野 満奈				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 教養 ○ 4-4 態度・志向性			

《授業の概要》

I Tの発展と相まって、多種多様な新型金融商品の登場、企業間競争の激化、および基幹産業の規制緩和等を背景として、経営環境が著しく変化を遂げているなか、経営者は、不確実性のもと意思決定に有用な情報を、そして、企業外部の一般投資家は企業とのコミュニケーションに主体的に参加すべく財務情報のディスクロージャーを要求する。ここではそのような情報社会における経営の仕組みと現状を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 情報と意思決定の関係についての理解を深め、社会の成員として活動するうえで必要とされる日本の経営に関する基礎的仕組みと用語を説明できる。
2. 毎回出される課題を時間内に提出できる。
3. 経営と情報社会に関するプレゼンテーションができる。

《成績評価の方法》

レポート (50%)、プレゼンテーション (50%)、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

授業中に配付するレジメをテキストとして使用する。

《参考図書》

日本経済新聞 日本経済新聞社  
 渡辺裕巨他編著「新検定簿記ワークブック 3級」中央出版社

《授業時間外学習》

講義のテーマに基づいた時事問題については特に注目し、日々の社会の動きを理解するように心掛けること。次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。本授業では15時間の授業時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

プレゼンテーションについて授業内でその都度コメントし、提出レポートに関しては提出の翌週にコメントを書き込み、返却することでフィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	日本的経営の特徴	終身雇用、年功序列型賃金、労使関係、企業間の系列関係、 我国企業経営の現状 【時間外学習】 日本的経営を下調べしておくこと
2	企業の資金調達	企業の資金調達の仕組み・他人資本・自己資本・資金の具体的運用形態 【時間外学習】 企業の資金調達の仕組みを下調べしておくこと
3	高度情報通信社会と経営	インターネットの普及と社会変化・IT革命以降の企業 【時間外学習】 IT革命を下調べしておくこと
4	ディスクロージャー制度	企業の情報開示とその手段・財務諸表の種類と見方 【時間外学習】 財務諸表を下調べしておくこと
5	企業会計情報システム	複式簿記と会計情報システム・補助簿の作成 【時間外学習】 複式簿記を下調べしておくこと
6	日本企業の歩み (1) 戦後～高度成長期	経済復興期、高度成長期 【時間外学習】 経済復興期を下調べしておくこと
7	日本企業の歩み (2) バブル期を中心に	低成長期、バブル経済、長期不況、21世紀の企業経営 【時間外学習】 バブル経済を下調べしておくこと
8	企業の社会的責任(1) 説明責任	あらゆるステークホルダーからの要求に対して、適切な意思決定をする責任 【時間外学習】 企業の社会的責任を下調べしておくこと
9	企業の社会的責任(2) 社会的公正	企業の社会的責任についての時事問題に関するプレゼンテーション 【時間外学習】 企業の社会的責任に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておく
10	製造物責任法(1) 被害事例	あらゆるステークホルダーからの要求に対して、適切な意思決定をする責任 【時間外学習】 企業の社会的責任を下調べしておくこと
11	製造物責任法(2) 消費者安全	製造物責任法についての時事問題に関するプレゼンテーション 【時間外学習】 製造物責任法に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておく
12	個人情報と経営	個人情報の適切な管理 【時間外学習】 個人情報保護法を下調べしておくこと
13	環境と経営(1) 環境配慮経営	環境経営からサステナビリティ経営へ 【時間外学習】 サステナビリティ経営を下調べしておくこと
14	環境と経営(2) 企業事例	環境経営とサステナビリティ経営に関するプレゼンテーション 【時間外学習】 環境と経営に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておく
15	時事問題を考える	時事問題に関するプレゼンテーション・ディスカッション (グループ討議) 【時間外学習】 時事問題に関するプレゼンテーションの原稿を作成しておくこと

《教養科目》

科目名	データサイエンス				
担当者氏名	石部 忠之				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-2 知識・技能 ○ 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

AI・ビッグデータ等の技術の進化など、あらゆる情報の電子化によるデジタル社会を意識したうえで、データサイエンスとは何か、活用される分野やその可能性について学ぶ。また、解析のための基盤となる統計学やプログラミングの基本とともに、協定企業の実際のデータや自治体発表のデータ分析を通して、データを扱う基本的規範と課題解決手法を学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 現代におけるデータサイエンスの役割を説明することができる。
2. データ収集・活用の一般的な方法を説明することができる。

《成績評価の方法》

授業課題30%、定期試験70%で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス (noa出版)

《参考図書》

竹内 淳著：高校数学でわかる統計学—本格的に理解するためにブルーバックス2012  
 柳井 晴夫他著：やさしい統計入門—視聴率調査から多変量解析まで ブルーバックス2007

《授業時間外学習》

本授業は1単位、8回の科目であるため、29時間の授業時間外学習を含み45時間の学習となる。よって、1授業回あたり4時間程度の予習・復習が必要となる。

《課題に対するフィードバック等》

提出された授業課題については授業者全員に総括的に授業内で口頭でフィードバックを行う。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容など
1	社会で起きている変化 データ活用を知る	pp. 2-48 これからの社会 (Society5.0) のAI時代に求められる人材について理解し、データ活用について理解する【討議】準備学習：教科書の予習
2	分析手法を知る (相対参照と絶対参照等)	pp. 90-97 Excel (相対参照と絶対参照、関数 (合計、カウント、最大、最小、切り捨て、切り上げ)) について理解する【PBL】準備学習：Excel関数
3	分析手法を知る (Rank、Vlookup関数等)	pp. 98-105 Excel (関数 (入れ子)、オートフィルター、ワイルドカード) について理解する【PBL】準備学習：Excel関数を予習・復習する
4	分析手法を知る (ピボットテーブルとグラフ)	pp. 106-117 Excel (ピボットテーブル、グラフ作成) について理解する【PBL】後期中間理解度把握をFormsにて実施 準備学習：Excelグラフを予習・復習する
5	分析手法を知る (代表値、標準偏差、正規分布)	pp. 118-133 Excel (代表値 (平均値、中央値、最頻値)、分散と標準偏差、正規分布) について理解する【PBL】準備学習：Excel関数を予習・復習する
6	分析手法を知る (散布図、相関係数等)	pp. 134-152 散布図、相関係数、回帰直線、回帰式、決定係数 (R <sup>2</sup> ) について理解する【PBL】準備学習：Excelテーブルを予習・復習する
7	データの活用事例に学ぶ (顧客データ)	pp. 50-63 顧客データの統計的記述から特性を分析する (代表値、最大値、最小値、ヒストグラム、中央値、標準偏差)【PBL】準備学習：Excel関数を予習・復習する
8	データの活用事例に学ぶ (協定企業実データ)	pp. 64-77 気象条件との相関を分析し、販売戦略を検討する。協定企業の実際のデータを用いての課題解決【PBL】準備学習：Excel関数を予習・復習する
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		